

共に生き、共に育ちあう



笠松保育園は、皆さまご承知のとおり、真宗大谷派笠松別院の境内にあり、「共に生き、共に育ちあう」をスローガンとして、感謝の心を育てることに力を注いでいます。

ところで、八万四千の法蔵と言われる程、お釈迦様の説かれた経典は沢山あるそうです。その二つに『唯摩経』があり、次のようなお話があります。

ある時、お釈迦様が、多くのお弟子がたの前で説法されていました。説法を聴いていたお弟子の中に、阿弥陀経に三十八回も名前が出てくる舍利弗という尊者が居られました。このかたは、沢山のお釈迦様のお弟子の

中で智慧第一と言われた大徳聡明な方でした。

その舍利弗さんが、説法の最中、ふと別のことを考えていました。「このお釈迦様は、今はお悟りを開かれ釈迦牟尼仏という仏様になっておられるが、仏様になれる世界はお浄土（浄土Ⅱ世界）でなければならぬ。苦

難に、現実、お悟りを開かれ、仏様になられた世界は、この娑婆である。一体これはどういうことであろうか」と。人間舍利弗にとつてこの世は、どう見ても汚なく、醜い、争いばかりの娑婆世界にしか見えなかったのです。

そんなことをブツブツ、独り言を言っている舍利弗さんの言葉を、共に聴聞していた梵天さん（お釈迦様が悟りを開かれ仏様とされた時、深遠な悟りの内容を是非世の為説いてくださいと熱心にお願いをした天人）が聞かれて、「舍利弗さん、貴方にはこの世は汚なく、醜い、争いばかりの世界としか見えないと聞かれるが、梵天の私には人間の目に映るよりも少し美しい、他化自在天の如くに見えますよ」な

どと、内緒話をしていました。すると、それを説法されていたお釈迦様が、突然説法を止められ、静かに立ち上がられました。そして、右足の親指で地面を軽く撫でられたのです。するとたちまち、この世界が、美しい黄金に変わりました。

唯摩経のお話はここで終わってしまいます。この話から私は、お釈迦様の目からはこの世はお浄土にしか見え、そのことを教えてくださっているのではないかと思うのです。

そうです、この世はもともとお浄土なのです。それを汚なく、醜い、争いだらけの世にしたのは、自分さえよければよいという思いで生きている私達だったのです。そしてそれに苦しめられているのです。

この世がお浄土でなければ、仏様のような赤ちゃんが生まれる筈がないと思います。

「共に生き、共に育ちあう」とは、子どもを育てるだけでなく、大人も共に育つことです。育つたつもりでも今一度、何時の間にか大切なことを忘れて生きているのではないかと、立ち止まってみる必要があると思うのです。こんな気持ちの保育日課です。

笠松保育園
園長 朝倉義紹

小学校新入学予定 児童の健康診断

教育委員会では、平成二十年度の新入学予定児童を対象に、就学時健康診断を行います。

これは、新しく小学校に入学する児童が、楽しい学校生活を送ることができるよう健康状態などを調べるものです。

【通知】
八月一日現在の住民登録にもとづき、新入学予定児童の保護者に小学校から九月中旬に通知します。

・下羽栗小学校 十月一日（火）
受付 午後一時～

当日、健康診断が受けられない場合は、必ず通知を受けた小学校へ連絡してください。

【相談の窓口】

健康診断や就学について心配なことがあるかたは、次のところへお気軽にご相談ください。

・笠松小学校
☎ 388-0101

・松枝小学校
☎ 388-2551

・下羽栗小学校
☎ 387-3123

・羽島郡二町教育委員会
学校教育課
☎ 245-1133

【実施場所・日時】

・笠松小学校 十月一日（月）
受付 午後一時～

・松枝小学校 十月五日（金）
受付 午後一時～

